



同窓会だより

第44回全国歯科大学同窓・校友会懇話会に出席して

同窓会会長 神田 正一

日時：平成12年11月11日(土)

午後2時～4時50分

場所：岐阜ルネッサンスホテル

当番校：朝日大学歯学部

第44回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が、朝日大学歯学部の主催で、岐阜市において開催されました。新幹線東京回り名古屋から岐阜というルートで、定刻の30分程前に会場に到着しました。早速会議が始まり、開会の辞、来賓挨拶となり、臼田貞夫日歯会長が時局問題についてお話しされました。その概要は、「かかりつけ初診料」の問題 ・ 歯科衛生士の3年制問題 ・ 需給問題 ・ 診療報酬改定について ・ 日歯シンクタンクについて、などが主たるものでした。続いて、全歯懇会議に移り、特別講演として「21世紀への歯科医療に向けて一時代に即した新しい経営手法」という演題で、朝日大学歯学部社会口腔保健学講座の赤石健司先生が講演されました。歯科医院経営という、我々開業医にとって身近な、そして切実な話であり、興味深く聞くことが出来ました。その後、協議があり、次期当番校東北大学歯学部同窓会より、来年7月14日(土)仙台で開催されるという挨拶があり、会議が終了致しました。引き続き、懇親会となり各大学の方々と懇談し情報交換を行って来ました。今回も協議はほとんどなく、セレモニー化した全歯懇という印象でした。

全国歯科大学同窓・校友会懇話会次第

1. 開会の辞

朝日大学歯学部同窓会副会長 中嶋 正人

2. 当番校会長挨拶

朝日大学歯学部同窓会会長 岸田 直道

3. 来賓挨拶

日本歯科医師会会長 臼田 貞夫

岐阜県歯科医師会会長 横山 靖夫

朝日大学学長 船越 正也

4. 来賓紹介

5. 出席者紹介

6. 全歯懇会議

特別講演

「21世紀への歯科医療に向けて

一時代に即した新しい経営手法一」

講師 朝日大学歯学部社会口腔保健学講座

非常勤講師 赤石 健司

座長 朝日大学歯学部同窓会常務理事

佐橋 喜志夫

7. 協議

議長選出

(1) 次々期当番校選出 福岡歯科大学同窓会

(2) その他

8. 次期当番校挨拶

東北大学歯学部同窓会

9. 閉会の辞

朝日大学歯学部同窓会副会長 平田 健一

平成12年度秋の新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会(国歯協)報告

同窓会会長 神田 正一

日時：平成12年11月12日 午前9時～11時30分

場所：ホテルサンルート名古屋

当番校：広島大学歯学部同窓会

会次第

1. 開会





広島大学歯学部同窓会副会長 柄 俊彦

2. 開会の挨拶

広島大学歯学部同窓会会長 藤岡道治

3. 資料確認

4. 出席者自己紹介

5. 協議

- ・本部同窓会と地元歯科医師会との関わり
- ・全歯懇・国歯協の年2回開催の必要性について
- ・次回当番校 東北大学歯学部同窓会
次々当番校 九州大学歯学部同窓会
- ・その他

6. 閉会

前日の全歯懇に続き、翌日会場を名古屋に移し、平成12年度秋の国歯協が広島大学歯学部主催により開催されました。今回は、協議のみ（講演はなし）で、各大学の意見を出し合うという会になりました。まず、開会の挨拶で広島大学歯学部同窓会の藤岡道治会長が、この国歯協のあり方、今後のこの会の方向づけについて述べられました。すなわち、歯科界をより良い方向にもって行くためにも、この国歯協が日本歯科医師会へ積極的に発言をして行く必要があるのではないか、そして、各大学同窓会とも地元歯科医師会への関わりを深めて行くべきではないか、ということでした。

そのまま協議に入り、まず広島大学同窓会県支部会員の歯科医師会に対しての意識調査のデータが示されました。歯科医師会会費の額やその用途、代議員会や総会の役割、歯科医師連盟の政治活動について等の、同窓会との関わりについてのデータであり、いずれも良く判らないとか関心がないとかという答えが多くを占めていました。出席した各大学同窓会にも、事前に歯科医師会と同窓会との基本的スタンスについてのアンケートが採られていました。10大学同窓会もそれぞれの意見があり、積極的に対応して行くべきだという立場、或いは、政治的には同窓会として動くべきではないという意見、様々でした。出席した各大学同窓会の代表も、個人的な意見はあっても、同窓会と

しての考えをこの場で即答することは出来ないということもあり、この国歯協を今後どういった方向へ持って行ったら良いのかという問いかけには、中々意見を一本にまとめるということは難しいようでした。各校同窓会が持ち帰り、次回の国歯協の協議に継続するということになりました。我々、新潟大学同窓会としては、この国歯協は同窓会活動等に関しての他大学同窓会との情報交換の場という位置づけという認識でおりましたが、この件に関して、あらためて理事会、評議会で意見を聞きたいと思っております。

以上、中々難しい課題を課せられた国歯協でした。

平成12年度学術セミナー 「歯科用レーザーについて」を受講して

16期生 阿 部 満（新潟市開業）

平成12年12月10日、新潟大学歯学部において、本学歯科補綴学第2講座の加藤拓先生を講師にお迎えして、上記セミナーが開催されました。受講者は限定20名でしたが、同窓会の学術理事・学術委員の先生方も熱心に参加され、活気のある素晴らしいセミナーとなりました。

ここ数年の歯科用レーザーの発達はめざましく、従来の治療法と比較してその優位性が確認されつつあり、その関心の高さをうかがい知ることができました。

加藤先生は、レーザーを効果的に使用するためにはまずその波長特性を十分把握することが大切であることを強調されました。その後、総論としてレーザーの性質、作用機序、応用の現状と有効性についてお話がありました。後半は各論として以下の5種類の歯科用レーザーについて説明がありました。

1. GC 炭酸ガスレーザー ナノレーザーGL-1
2. オサダ 半導体レーザー ライトサージ3000
3. モリタ Er-YAG レーザー アーウィン





- 4. タカラ 炭酸ガスレーザー ベル・ラクサー
- 5. ソキア Nd-YAGレーザー ネオキュア 7200

実演・実習は受講者を5班にわけ、各商社の機器の説明、デモ見学、各自の実習を約1時間ずつ合計約5時間行いました。時間としてはかなり長かったのですが、各商社の担当者の熱のこもった説明、受講者の真剣な取り組みにより瞬く間に時間が去っていったというのが実感です。

従来、麻酔の点において患者さんの苦痛が大きかった膿瘍切開が無麻酔で蒸散できること。小帯切除において縫合の必要がないこと。歯肉色素沈着を表面麻酔のみで蒸散できること。その他止血凝固作用、疼痛緩和作用、カリエス罹患部位の選択的除去作用など歯科用レーザーの応用範囲は実に広範囲に渡るものであり、診療室には是非とも必要な歯科用機器であると認識できました。

受講後、早速一台購入し、現在重宝して使っております。

最後にご講演いただきました加藤先生、並びに同窓会役員の先生、各商社の担当者の皆様に深く

感謝申し上げます。

また、学生時代恐かったイメージのある1保存の福島先生が昼食時、受講者のために一生懸命お弁当やお茶を運んでいた姿が目に焼きついております。ありがとうございました。

新潟大学歯学部卒業生ネームプレート の設置について

同窓会 広報

昨年3月に30期生が卒業し節目を迎えたこともあり、同窓会事業として歯学部玄関脇に1期生から30期生までのネームプレートを設置し、2月17日に除幕式を行いました。各クラス毎に1枚のプレートにアレンジしましたが、年代で人数に大きな開きがあるためクラスによっては一人の名前が若干小さくなってしまいました。今後は卒業生が旅立つ毎に1枚ずつプレートを追加していく予定です。3月発行の同窓会誌の表紙は、このネームプレートで飾る予定ですので、ご覧ください。

